

記念
特集号
2010.9

平成13年1月18日にオープンした
福島県男女共センター「女と男の未来館」は、
本年1月に開館10年目を迎えました。
本号では、未来館誕生10年記念事業の
第1弾から第4弾までを特集します。

福島県男女共センター広報誌

未来館 NEWS



“下村満子館長講演”

女と男の未来館の“未来観”

「生き方」を考えるひろばへ」

3月22日(月)に、福島県男女共生センター下村満子館長が、これまでの10年の取り組みを振り返り、また、「女も男も、子どもも大人も、老いも若きも、全ての人々がより幸せになる社会」を目指すために、センターがこれから果たすべき役割、センターの在り方について語りました。

私はこの福島県男女共生センターの館長を10年つとめていますが、センターで講演するのは、実は今日が初めてです。本日は、この10年を振り返って、私たちが何をやってきて、これからのセンターがどうあるべきかについてお話をさせていただきたいと思います。

■はじめに、この10年をもって館長を退任させていただくことをご報告申し上げたいと思います。任期を1年残り退任させていただくのは、そもそも私がなぜこの館長を引き受けることになったかということにも関係がありますので、そのことについて少しお話ししたいと思います。

ご存じのように父が二本松市の出身で今でもこちらに自宅がありますし、母も福島市の出身です。3人兄弟の中では私だけが実際に、戦後間もない頃二本松で暮らし、福島には非常に縁が深いこと、さらに、父方の祖母が15歳ぐら

いで結婚して大変苦労し、また、母方の祖母も、日本女子大で学んだのですが、お姑さんに「生意気な女だ」といじめられ30代半ばで亡くなるというつらい一生を送りましたので、母からも「他の仕事は断っても、福島県の女性の地位向上の役に立つような仕事を引き受けて」と懇願され、館長をお引き受けすることにしたという経緯がありました。それで、センターの方向性と基礎作りなら数年でできるだろうと考えていましたので、実はこんなに長く館長をつとめるつもりはありませんでした。

しかし、センターが開館して5年目頃に、そろそろ、次の方にバトンタッチをしたいと思いはじめたのですが、保守化の流れ、いわゆるバックラッシュで男女共同参画社会基本法がつぶされそうになったことがありました。その時、当時の佐藤知事から、福島県にはこのバックラッシュの波を一步も入れないよう、がんばりましようと言われ、館長を続けることにしましたが、バックラッシュも一段落したので、実は2年くらい前から退任の決意を固めていました。

でも私は、結果的には、館長を10年させていただき、大変によかったと思っていますし、支援してくださった多くの方々に本当に感謝しています。

話が前後しますが、このセンターを立ち上げるときに、国際派ジャーナリストなどと呼ばれる私が館長をさせていただく以上、普通のローカルなセンターにはしたくない。日本一のセンターで、かつ、非常にユニークなものにしたいと考え、「ローカル・ナショナル・インターナショナル」をキーワードにすることを決意しました。ローカルというのは、県民の税金でつくったセンターですから、県民の皆様にもフルに活用いただける施設にすることで、ナショナルというのは、ここから発信する情報やプロジェクトの中身などを、全国に通用する超一流のものにすること。そして、インターナショナルとは、これからの日本は、たとえ地方といえども、国際的な視点がなければ生き残ることはできないと考え、国際的な視野に立ったプログラムを開催しようというものでした。

また、その当時は、男女共同参画とは何かということを知らない方がたくさんいました。そこで、あまり狭い意味での男女共同参画の視点はとらずに、もっと土俵を大きくし、生きること全てが何らかの形で男女共同参画にかかわってくるということを伝えていこうと考えました。

私の男女共同参画の定義というのは、新しい21世紀の男女の生き方を追求するというものです。長い間、女性の役割は、結婚して、子どもを産んで育て、外に働きに行く男性を支えるというものでした。センターはこれまで、男は外、女は内という性別による役割分担意識を変えようとしてきました。女性が自分の人生を自分で選択することができなかつたり、男女の就労条件等に不平等があったりする場合、それは変えていかなければならない問題ですが、この10年で、センタ

一だけではなく福島県もその問題に取り組んでいて、非常に大きな成果を挙げてきています。

最後の一つは、男女共同参画は男女平等参画ですから、女性だけが集まって、夫がどうしようもないなどの愚痴をこぼしあっても意味がないので、多くの男性にも来館していただける施設にする、というものでした。ですから、開館時に私は皆さんに、最終的には県民の皆さんがセンターを乗っ取って「我々が運営するので、館長は不要です」という状況になることが理想で、このセンターが、県民が集まる広場になってほしいと申し上げました。

人間は生まれてから死ぬまで、いろいろなライフステージがあるので、そのステージごとに男女共同参画の意識をきちんと持つ必要があります。まずは、子どものときから男女共同参画の意識を持たせることが非常に大切です。さらに、生まれてから死ぬ瞬間まで、そのライフステージごとの男女共同参画の課題は違ってきます。その課題に私たちは向き合っ

て生きていかなければいけません。男女共生とか男女平等とかということのみを強調せずに、一人ひとりが自分のライフステージごとの生き方を考えていくべきではないでしょうか。その中で、子どもたちを集めるイベントを開催してもいいし、読書会を開いているいろいろな人の生き方を学んでもいい。あるいは、リタイアした方がボランティアで、自分の職業や生き方について子供たちに語って聞かせてもいいわけです。人間は、死ぬまで尊厳を持って生きてこそ人間なので、最期の瞬間まで自分がいきいきと生きて、存在していることに意味があるのだということを感じさせられる社会をつくる必要があります。このセンターを、そういった人間の生き方を考える広場として、また、自分の生き方を考えるための場所として、もっとたくさんの方々に利用していただければと思います。

私たちは人間であるという点では、女も男もジェンダーフリーです。たまたま女だった、たまたま男だったというだけで、違うことによっていろいろな問題もありますが、協力し合えば1+1は3にも5にもなるのです。若い人から高齢者まで、男性も女性も、障がいのある人もない人も、シングルマザーも、シングルファザーも、多様なライフスタイルを持った人たちが集まって、ワイワイやって、その中から新しいものが出てくるのです。センターはそれを生み出すきっかけを与える場として、さらに、何度も申し上げます、「生き方を考える広場」にこれからもなっていくべきではないかと私は思っています。

異論、反論、何でもあり。 とことん話そう大討論会



3月22日(月)の下村館長講演に続き、会場にお集まりの皆さんと下村館長が、男女共同参画という狭い範囲に限定せず、政治、経済、社会の問題から国際問題まで、幅広く人間としての生き方を追求することをテーマに、活発な討論を繰り広げました。その一部分を抜粋してご報告します。

Aさん 教師を続けながら育児をしてきましたが、周りの人は育児のためにどんどん退職していきまして。会場には若いお母さん方もいらっしゃると思うので、育児と仕事とを両立するためのコツを教えてください。

下村館長 Aさん御自身はどのようにされてきたのですか。

Aさん 夫が有給休暇の取りやすい職場にいたので、子どもの入学式も授業参観も全て夫が出席してくれました。しかし、ご近所には、育児のために勤められないという女性がたくさんいました。

Bさん 心に悩みを持つ方々の話を聞く活動していますが、男性の行動が女性の生き方に大きな影響力を持っていると思うのですが。

下村館長 Aさんご夫婦は本当に素敵なカップルですが、男性が育児に参加できる特殊なご夫婦だけが女性の就労を可能にするのではなく、社会全体がそうならなければなりません。男性が育児休業を取りたいと思っても、企業風土や組織がそれを許さないネガティブな風潮があります。男性は育児を拒否しているのではなく、育児のための時間がとれないのです。もっと一人ひとりが心のレベルを高め、自分たちが望む社会を自分たちで実現していかなければなりません。

Cさん 女性は、メディアの風潮に流れていく傾向があり、全体の流れの中で自分の意見が言えなくなってしまうようですが、メディアに対する意識の持ち方などについてどのようにお考えですか。

下村館長 私にとっても大きなテーマです。日本人はメディア



の言うことを全部本当だと丸のみにする体質がありますので、一人ひとりがメディアの報道の中から自分なりに真実を測っていかなければなりません。そういう意識を育てるためにも、学校教育の中で、メディアの作られ方やメディアの限界などについて教えるべきだと思っています。

Dさん 今の日本には、他人に奉仕する気持ち、ボランティア力がないというのをすごく感じています。子どもたちには心の教育が必要だと思えます。

下村館長 戦後の履き違えた民主主義が、自分一人だけで生きているつもりになって、何をしようと自分の勝手だとか、自由だろうなどと考える人を育ててしまったのです。自由の背後には義務もあり、たくさんの人のおかげで生きているということを忘れていきます。それを育てた世代が我々だったりするわけですが、幸い日本人は、素晴らしい潜在能力を持っていて、人知れず一生懸命いいことをやっている人たちが沢山いますので、辛うじて崩壊しないで済んでいます。社会全体が本当に人間力を回復し、人間改革をしていかなければなりません。誰かの役に立ち喜びを与えること、そして感謝されることは本当にうれしいことです。

Eさん 館長の言葉を借りれば、このセンターは、いのちを深く見つめていく「いのち共生センター」で、私も含めた県民みんながここを守って育てていけるような場所にしなければならないと考えています。

下村館長 このセンターのネットワークは大事に守っていかなければなりません。ここを今後も県民の広場、話し合いの場とするため、今日を新たなスタートラインにしていきたいと思います。@?



未来館誕生 10年記念表彰



① 坂本 選考委員	② タカラ印刷株式会社 常務取締役 林 由美子氏	③ NPO法人 しんぐるまざあず・ふ おーらむ・福島 理事長 遠野 馨氏	④ 医療法人 秀公会あづま 脳神経外科病院 事務局長 寺島 長司氏	⑤ 飯館村商工会 会長 長谷川 長喜氏	⑥ リプロダクティブ・ ヘルスを考える会 宗形 初枝氏	⑦ 堀切 選考委員
⑧ 会津若松市男女共同参画 推進条例研究会 代表 畑 洋子氏	⑨ 堂本選考委員	⑩ 下村館長	⑪ 太田 緑子氏	⑫ NPO法人 市民メディア・イコール 理事長 遠藤 恵氏		

平成22年3月22日、「未来館誕生10年記念表彰式」が行われました。

この表彰事業は、福島県男女共生センター「女と男の未来館」が開館10年目を迎えることを機に、一人ひとりが性別に関わりなく自由に生き方を選択し、その個性と能力を十分に発揮できる社会ー男女共同参画社会ーの実現に向けた、モデルとなる積極的な取り組みを顕彰し、今後さらに男女共同参画社会の実現のための活動や取り組みの幅広い普及を図るため、新たに創設されたものです。

初めての試みであったにも関わらず、県内から33団体・個人の応募があり、選考委員会による選考の結果、「女と男の未来館大賞」5団体、「未来館チャレンジ賞」2団体、「特別功労賞」1名の、計7団体1名が受賞されました。

表彰式においては、下村館長から各受賞団体の代表者に、賞状及び記念のクリスタルの盾が手渡され、その後、下村館長と堂本選考委員、坂本選考委員が、代表者の方にインタビューを行いました。

なお、受賞された団体及び個人の活動内容や受賞のコメント、インタビューなど、表彰式の模様は、「未来館NEWS」40号から42号に掲載いたします。

【女と男の未来館大賞】

- 会津若松市男女共同参画推進条例研究会
- 飯館村商工会
- 特定非営利活動法人 市民メディア・イコール
- 医療法人 秀公会 あづま脳神経外科病院
- タカラ印刷株式会社

【未来館チャレンジ賞】

- 特定非営利活動法人 しんぐるまざあず・ふおーらむ・福島
- リプロダクティブ・ヘルスを考える会

【特別功労賞】

- 太田 緑子氏

選考委員長	下村 満子 館長
選考委員	堂本 暁子 氏(前千葉県知事)
	目黒 依子 氏(国連婦人の地位委員会日本代表)
	河野 栄子 氏(元株リクルート 代表取締役会長)
	坂本 恵 氏(福島大学行政政策学類准教授)
	堀切 豊 氏(福島県生活環境部人権男女共生課長)



世界の大使が語る、日本の今

—もっと知ろう世界のこと、日本のこと—



トルコ共和国

特命全権大使 セリム・セルメット・アタジャンル 閣下

トルコの近代化のプロセスで最も重要だったことは、女性が解放されたことです。それまで女性は、男性の後ろを歩むということが当たり前でしたが、初代大統領により、男女平等と権利の平等についての政策が講ぜられ、1924年には教育の男女平等が完全に達成されました。さらに、1930年には地方選挙における参政権が、1934年には国政レベルでの参政権が女性に与えられました。

その後女性は、特に教育、専門職、司法等の分野で際立った存在となり、現在は高等裁判所などで活躍する女性や女性教授も多く、大学生の半分以上が女性です。しかし、残念ながら政治の世界にはあまり女性が多くありません。女性の国会議員の数や、女性の閣僚が少ないということを指摘しなければなりません。

最近では、永続的に法的枠組みを男女平等に対して与えるという憲法修正がされました。しかし、法律や規則で男女平等の権利を与えても、ものの考え方や人の態度が変わらなければ前途は多難です。これからは特に男性の態度を変える必要があると考えています。



ポーランド共和国

特命全権大使 ヤドヴィガ・ロドヴィッチ 閣下

ポーランドでは、中世の時代は女性が影響力を持って権力の座に着いていました。彼女たちは王の諮問委員会で影響力を行使したり、土地や財産を遺産として引き継いだり、強力な発言権を持っていました。

18～19世紀にかけ度々ポーランドは独立を失い、女性の地位についても占領国の法律に規定されることになります。ロシア支配下にあったポーランド東部での動乱で、ポーランド人は土地や財産を没収され、家族共々国外へ追放されてしまいますが、そのような状況の下、男女は同じ負担を背負い、同じ役割を担うこととなりました。同志として女性も戦い、働かなければなりません。また、教育の担い手としても女性の役割は非常に大きいものでした。

その後も様々な戦争に巻き込まれましたが、ポーランド人のアイデンティティを維持することは大変重要でした。しかし、そうした非常に残酷な状況にあったがゆえに、ポーランドの女性はエネルギーを発揮し、非常にたくましくなり、現在では、女性の首相も誕生し、女性の地位は向上しているのです。



ベトナム社会主義共和国

特命全権大使 グエン・フー・ビン 閣下

ベトナムでは、女性も男性も平等です。特に政府の政策においては全く差別がありません。男性と同じように女性も仕事を持ち、あらゆる経済活動や社会活動、政治の世界に参加することができます。現在では国会議員の26%が女性で、国家副主席や閣僚、副大臣など政府の要職にもたくさんの女性がついています。ビジネスの分野や科学技術の分野、文化・スポーツの分野でも、女性が活躍しています。経済の発展に伴い女性のCEOがたくさん生まれ、多くの女性が科学者としてのキャリアを求め、また、女性の医師や教授も増えてきています。

政府は、女性進歩国家委員会をつくり、女性進歩のための国家戦略を立案しています。その結果、アジア開発銀行2006年報告によりますと、ベトナムは女性の経済参加率が世界でも最高レベルで、男女平等を尊重するより進んだ国の一つとなり、その分野ではさらなる進展を見せるであろうと報告されています。しかし、国民の生活水準は未だに低く、生活水準を高め、女性の負担軽減をしていく必要があると思っています。

2月27日(土)に、トルコ共和国、ポーランド共和国、ベトナム社会主義共和国の大使閣下をお招きし、それぞれの国の文化や生活、社会における女性の地位等についてお話しいただきました。

また、パネルディスカッションでは、女性の政治参画やワーク・ライフ・バランスの現状などについて、意見交換を行いました。

下村館長 日本は男女平等が憲法で規定されていますが、だからといって日常生活の中で男女平等が実現しているというわけではなく、「男は外、女は内」という役割分業の考え方や意識はなかなか変えられません。

皆様の国にも古い伝統や歴史がありますが、その中で男女平等を進めるにあたって、葛藤や摩擦などはありませんでしたか。また、家族における男女平等がどの程度実現されていて、どのような課題が残されているのでしょうか。

🇹🇷 セリム・セルメット・アタジャンル閣下

男女平等を進めるに当たって、もちろん摩擦はありました。今では世界のどの国でも、法律で女性を差別するというのを規定しているような国はないと思いますが、それだけでは十分ではなく、ものの考え方や態度も変えなければいけないと思います。

それからもう一つ、女性の経済的自由という重要な側面があります。女性が経済的に自立していないと、法律でどんな自由を保障したとしても、結局は無給の仕事を家の中で続けるしかなく自由が制限されてしまいます。

また、多くの女性は、大学を卒業したら自分のキャリアを追求し自己証明をしたいと思っています。しかし、結婚して育児・家事をするという伝統的な役割をしなければならないという社会が与えるプレッシャーのため、キャリアを追求することはそう簡単なことではありません。

🇵🇱 ヤドヴィガ・ロドヴィッチ閣下

ポーランドの企業の幹部の男女比率は、40%が女性で男性は60%ぐらいです。ヨーロッパ全体ではポーランドは中ぐらいで、英国やスウェーデンよりも女性の参加率が高いです。

また、上院よりも実際に力を持つ、下院議員の20%が女性です。女性上院議員の割合は8%です。それから、中道の市民プラットフォーム党が政権の座を取った2007年には、国会は保守党の支配下にありましたが、保守党の女性議員の割合が25%、女性上院議員の割合は15%でした。保守党政権下の方が女性議員の比率が高く、ちょっと不思議な現象で話題にもなりました。

ビジネスの世界では、企業の最高経営責任者は男性のほうがまだ多いです。しかし、重要なポストに就いている女性はたくさんいます。

★ グエン・フー・ビン閣下

ベトナムの女性の地位は、非常に高く、尊敬されています。伝統的に高く評価されていたのですが、フランスの植

民地であった時代に男女平等の考え方が入ってきて、もっと女性を尊敬しなければいけないという声さらに高まりました。

また、我が国の生活水準がまだ非常に低く、夫だけが稼ぎ手の場合、家計を維持できないため、夫婦が共働きをせざるを得ない事情があります。

下村館長 女性は仕事を持ちながら、育児や介護も担わなければならないという二重の重荷を背負って働いています。日本ではワーク・ライフ・バランス政策を打ち出していますが、多くは女性の肩に重荷がかかっています。各国の状況はいかがでしょうか。

🇹🇷 セリム・セルメット・アタジャンル閣下

この問題については、正解はないのではないのでしょうか。男女平等は大事で、ものの考え方を変えなければいけないということはみんなわかっていますが、結局、家事や育児を主に担うのは女性である場合が多いと思います。これは残念なことで、女性に対してもとてもアンフェアなことです。

下村館長 正直にお答えいただき、ありがとうございます。この問題で悩んでいるのは日本だけではないのですね。ポーランド・ベトナムはいかがですか。

🇵🇱 ヤドヴィガ・ロドヴィッチ閣下

本当に答えにくい問題です。私は女性で、家族を持ち、子育てをして、孫もいます。そして仕事もしていますが、やはり女性は2倍働かなくてはならないのです。産休後に職場復帰することが法律で保障されていますが、復帰後は、プロとしての仕事ができるのだと証明するために2倍努力しなければなりません。ポーランドの外交官は全体で男性が521人、女性は489名で、男女がほぼ同じ比率です。しかし、局長級または次長級になると、男性に比べ女性はとても少なくなります。外交官の生活は大変です。24時間仕事をしているという感じでストレスが多く、激務です。女性の体はこのような仕事に向いていないと思うこともあります。

★ グエン・フー・ビン閣下

ベトナムでは1日8時間労働で週休2日制です。早朝7時半から働き、仕事が終わるのは4時半という労働時間です。会社に6時ごろまで残っているなどという人は本当に少ない。夫は夜が来る前には必ず帰ってきて、子育てや家事をし、夕食は自宅で家族と一緒に食べるというスタイルです。

産休は4カ月で、給料は全額支給されますが、ボーナスは支給されません。そのため、ベトナムの女性は、産休が終わったらできるだけ早く仕事に戻りたいと考えるのです。

下村館長 日本の家族や女性と男性の関係について、また女性の社会的な地位ということについて、感じていらっしゃることをお聞かせください。

★ ゲエン・フー・ビン閣下

日本の男性は高い給料を稼ぎ、家族をサポートできるということがいいことだと思います。しかし、そのためには長時間働かなければならなくなり、家族にとっては問題だと思います。

■ ヤドヴィガ・ロドヴィッチ閣下

私もベトナムの大使と同感です。日本の家庭では夫の存在がほとんどありません。日本の友人を見てみると、夫は常に家の外にいて、妻が一人で家事育児をやっている。これは30年前とそんなに変わっていないような気がします。私は、家族として一体感を持って、共に過ごす時間が大切だと思います。そういう時間が多ければ、社会的に人間関係も学ぶことができるし、そのような人間関係を子どもに教えるということもできるからです。

また、日本是世界でも有数の資産を持っているお金持ちの社会であるのに、それにもかかわらず、なぜかあまり家族の喜びを感じられません。戦時中でもないのに、若い女性が、将来がわからない、結婚したくない、家族を持ちたくないと考えることに、ちょっと驚きを感じています。

🇹🇷 セリム・セルメット・アタジャンル閣下

トルコでもそうですが、女性は目立たないように、できるだけ社会では低姿勢でいるという伝統的な役割を甘受しているように思います。人生の責任や権利などについての女性の意識を高めることが必要ではないでしょうか。トルコでは、女性団体がそのような女性の意識を高める取り組みを行っています。

下村館長 国や文化が違っても、私たちは同じ人間です。ですから、「違い」ということから始めずに「共通」ということから始まったほうがいいのだと思います。今日は、各国に様々な違いはあっても、それぞれ似たような悩みと問題を抱えながら、一生懸命努力をしていることをご理解いただけたかと思います。ポーランド大使のように人の3倍も頑張っている方がいます。どの国の女性も、男性の3倍も5倍も頑張らないと、社会の中でそれなりの発言力、影響力は持てないという点では同じだなと思いませんか。

本日は、各国のそれぞれの事情を大使自らに伺うことができ、お集まりの皆様は本当に幸運だと思います。是非、今日の経験をお友達や周りの人たちにもお話ししてください。大使の皆様、会場の皆様、本日はどうもありがとうございました。



トルコ共和国

特命全権大使

セリム・セルメット・アタジャンル 閣下

2月28日(日)、トルコ共和国 特命全権大使 セリム・セルメット・アタジャンル閣下、大使顧問 ポアチ・ウリケル氏が、二本松市と会津若松市をご視察になりました。

坂本乙造商店

会津を代表する伝統工芸「漆工芸」に最新の技術と素材を融合させた美しい商品が、優雅に並ぶ「坂本乙造商店」をご視察なさいました。大使とポアチさんは、お気に入りの品を見つけたようで、いくつかお土産をご購入なさいました。



料理旅館 田事

会津の伝統料理「わっぱめし」で有名な「田事」で昼食をおとりになりました。美しい器に盛りつけられた伝統料理の数々をご覧になった大使は「Beautiful」と感激されていました。



会津鶴ヶ城 天守閣



鶴ヶ城の天守閣の視察では、あいにくの天気で展望台から飯盛山は見る事が出来ませんでした。現代によみがえった(?)「サムライ」と記念撮影をなさいました。



ポーランド共和国

特命全権大使

ヤドヴィガ・ロドヴィッチ 閣下

2月26日(金)、ポーランド共和国 特命全権大使 ヤドヴィガ・ロドヴィッチ閣下、一等書記官ラディック・ティシュケヴィッチ氏及び映画ディレクター チェホフスキ氏が、白河市と二本松市をご視察になりました。

アウシュヴィッツ 平和博物館

小淵館長から、館内の展示品等について説明を受けながら、ご覧になりました。大変な悲劇を受けたポーランド、大使のご親戚にも戦争による被害を受けた方がおり、とても感慨深い思いで見学をされていました。



郡山市立 御館中学校

日本の伝統文化にとっても精通しておられる大使は、「白波五人男」の場面をご覧になった後、生徒の説明を受けながら、歌舞伎特有の「隈取り」に挑戦されました。短い時間でしたが、歌舞伎に取り組んでいる生徒との交流を深められました。



二本松工芸館 田中家具



三百年の歴史の二本松筆筥や伝統工芸品を視察しました。日本の伝統文化に興味を持つ大使は、田中店主の説明を受けながら、展示品を手にとられ興味深くご覧になりました。

◀御館中学校生徒、郡山市教育長と一っしょに記念撮影



ベトナム社会主義共和国

特命全権大使

グエン・フー・ビン 閣下

2月28日(日)、ベトナム社会主義共和国 特命全権大使 グエン・フー・ビン閣下、レ・ティエ・ガン夫人、グエン・レ・ミン令息及び大使秘書官 レ・ホン・ハイ氏が、会津若松市をご視察になりました。

会津鶴ヶ城 天守閣

鶴ヶ城では、天守閣に登りになられ、歴史的に貴重な資料を熱心にご覧になり、特に、悲劇として有名な戊辰戦争での「白虎隊」のエピソードについては興味を引かれたようでした。また、武将との記念撮影も大いにお喜びになりました。



岳温泉 「陽日の郷 あづま館」

夕食後、大使夫妻は初めての餅つき体験をされました。始終笑顔で餅つきを楽しみ、できあがったつきたてのお餅をあんこ餅やきな粉餅にして召し上がり、日本の食文化を楽しみました。



末廣酒造 嘉永蔵



日本酒の製造工程等や酒米の説明などを熱心にお聞きになられ、その高い品質管理とうまい酒造りへのこだわりに大変感激されていました。その後は試飲もされ、和のこころを感じていられたようでした。

講演会 おんなって何？ おとこって何？

3月13日(土)に、総合研究大学院大学 長谷川眞理子教授、中央大学 山田昌弘教授をお招きし、生物学的、社会学的な視点から、「男性、女性とは何か」、「男性、女性の関係」等について、お話しをいただきました。

また、パネルディスカッションでは、3人がそれぞれの立場から、女と男の違いや、現在の若者事情について意見を交換しました。



講演 1 「どっちがう？ オスとメス、男と女」

総合研究大学院大学教授 長谷川 眞理子 氏

生物学の定義では、精子をつくる個体が雄で、卵をつくる個体が雌です。そもそも、オスとメスの違いは、精子と卵という違うものがあることが根本的な違いです。昔は、卵巣と精巣のような生殖器官の違いだけだという意見もありましたが、どの生き物も生活の全てに性差が生じていて、生きていく戦略が違います。多くの場合、一生懸命求愛行動をして気を引こうとするのが雄で、その行動を見て、雄の質を選び好みするのが雌です。ほ乳類の場合、雄は子育てをせず、雌だけが子どもの世話をする種が95%です。つまり多くの雄は授精するだけです。雌は子どもを育てなければならぬので、自分自身が生き残って、自分が元気で世話をし続ける必要があります。それで、雌の平均寿命は雄よりも長くなります。

ヒトはほ乳類なので、女性が1人の子どもの産んで授乳し育てるという負担は男性よりも大きく、それが、免疫的にも男性より女性の方が強く、寿命も長い理由です。しかし、人間の男性は何も子育てしない種の雄ではなく、ペアを形成し、社会の中で一緒に育児をしなければなりません。だからヒトは、自分にとって最適な状況を得るには、男女両方向性の配偶者選択をしていくことになります。

動物だからといって何でも本能で決まっているわけではなく、いろいろな戦略を使い分けています。動物の個別の例をそのまま人間にあてはめて解釈するのは間違いです。しかしほ乳類である以上、母親による、育児の重要性はなくならないので、女性が育児を犠牲にして男性型の生活様式になることが女性の解放ではないと思います。その意味でまだまだ考えなければならない問題は山積みしていると思います。

TALK 長谷川教授 × 下村館長

下村館長 日本は、男性の組織運営はピラミッド型で、女性はネットワーク型という風に思っていますが、その点はどう思われますか？

長谷川教授 男女を問わず、コントロール型、ネットワーク型の思考があると思います。現代社会では、コントロール型に支配力があり、勝っていますので、そこで女性がやっていくことはすごいストレスだと思います。

下村館長 組織自体が男性向きなので、耐えられなくなる女性がいるのは、女性に能力がないからではありません。女性の能力を



引き出し、子どもを産み育児をしながら社会貢献できる制度組織、まさに男女共同参画の実現が必要ですが、それにはまだまだ時間がかかります。

長谷川教授 時間はかかると思いますが、競争的でコントロール型でない男性もそろそろ出てきたのかなという気もするので、変わってきているとは思います。

下村館長 最近の少子化傾向というのは、生物学的見地からどう

講演 2 「婚活から見えてくる現代の若者事情」

中央大学教授 山田 昌弘 氏



白河桃子さんとの共著で、結婚活動を縮めて「婚活」という言葉をつくったのですが、本来は、「男女共同参画で共働きのすすめ」で、男性がおとなしくなっているから、女性は待っていてもダメで狩りに出なければと、さらに、男は仕事、女は家事のような性別役割分業こだわっていたら結婚できませんよというふうに書きました。

男女の非対称性についてお話ししますと、出典は不明ですが、男にとって男は「力」、女は「美」。女にとって男は「気はやさしくて力持ち」、女は「謎」ということわざがあります。男にとって男は、上下関係が重要で力を持つ男性の方が尊敬されます。男にとって女は「美」とは、男性は女性を性的魅力の視点で評価するということ。女にとって男は「気はやさしくて力持ち」とは、男性の中で順位が高い、つまり男性同士の力比べで勝ったものを評価するらしいということで、最後に女にとって女は「謎」ですが、この言葉を考えたのは多分男性ですが、私にとっても謎です。この非対称性を見ると、男性に人気がある男性は、女性にも人気がある。しかし、女性に人気のある男性が、男性に人気があるとは限らないし、男性にもてる女性が、女性の中でいい人だと思われるとは限らない。ここに非対称性が存在しています。男性は能力と魅力が一致しますが、女性は能力と魅力は別物というふうにとらえられるわけです。

結局、婚活といっても、収入の高い男性を求めているという構造が女性の中で変わらない限り、難しいだろうと思います。職業的に成功できなくてもかわいくてやさしい男性を好きだという女性がどんどん現れてくれればいいのですが、なかなかそこがうまくいきません。それでも現実に結婚して子どもを持ちたい人が大勢いるのであれば、感情の面は少し抑え、収入の面でそれほど高くなくても、いい人であったら結婚してみたいかがでしょう。アメリカやヨーロッパのように、一緒に子どもを育てるパートナーをお互いを選ぶということを勧めてみてもいいのではないのでしょうか。

TALK 長谷川教授 × 山田教授 × 下村館長

長谷川教授 知り合いの心理学者が、10年ほど前に37カ国で結婚相手に求めるものを調査したのですが、女性は財産や収入のある男を求め、男性はきれいな女性を求めていました。特に日本は、先進国の中でもその意識が大きく、女性は男性の経済力を、男性は女性的美しさを極端に高く評価していました。

下村館長 結婚するときの価値は、魅力的でその人と一緒にいたいというよりは、お金とか地位などが重要というふうに受け取れますね。

長谷川教授 ちょっと下の世代で結婚願望がある人達は、選り好みばかりし、この先もっといいチャンスがあるに違いないという

思われますか。

長谷川教授 育児へのエネルギー投資に魅力を感じず、自分がかわいがることの魅力の方が強い状態だと思います。人間を育てるという先々のことを考えたとき、出産に希望が持てず、それよりも、自己投資をすることの方が楽しそうであれば、どんどんその傾向は進むのではないかと思います。

ようなことを言います。好きだったら飛び込みなさいと言うと、そういうことはできないみたいな感じです。

山田教授 社会や組織の中で、女性が男性の関係の中に入るのは上下関係ができているので、ポジションは分かり易いのですが、女性の場合、上の人でも下の人に気を遣わなければいけないということに驚きました。

下村館長 人間同士なのだから、本来上下は関係ないんですよね。しかし、男性社会の中で仕事をするのは、大変なストレスなので、生き残れる女性は限られます。でも、男女の多様な感性やいろいろな発想がより良いものを生み出すのですから、好むと好まざるとにかかわらず、女性は社会や組織の中で、もっと決定権のあるポジションへ行くべきではないかと思います。

長谷川教授 今の組織は男性に都合が良く、心地いいものになっているから、例えば女性を半分入れて、トップも女性にすれば、女性には心地よい組織に変わります。男女が切磋琢磨して落ち着くところを作っていかなければならないのではないかと思います。

下村教授 最後に女と男がより幸せになるための一言をお願いします。

山田教授 とにかく婚活は、高収入の男性をゲットする勧めではありません。そこそこですてきな人はいっぱいいますので、そちらでチャレンジすることを未婚女性に勧めていただきたいというのが婚活の狙いです。

長谷川教授 最近の若い人たちは、観念的で、失敗を恐れて、また、誰もが同じような価値尺度でものを測ろうとするように思います。感性を大事にして、直感で、その人とうまくいくと思ったらやってみればよいということです。考えていたって結局結論は出ないよということを言いたいですね。

下村館長 現代人は理屈ばかりこねて、本来持っているアンテナが弱まっています。論理ではなく感性、心に訴えてくるもの、感じることをより大切にする必要がありますね。

スワンシスターズ スペシャルトーク 4人のトップレディが語る『私の生き方』



3月14日(日)に、福島ビューホテルを会場に、下村館長が鳩山幸さん(内閣総理大臣夫人)、細川佳代子さん(認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本名誉会長)、湯川れい子さん(作詞家、音楽評論家)など名実とも日本のトップレディ3名をお招きし、それぞれがこれまで歩んできた人生や、夫婦関係、家庭について楽しく語り合いました。

下村館長 今日は、私の親しい友人でもあり、チャームングでとても素晴らしい女性達にお集まりいただきました。4人も個性が強く、それぞれが違う生き方をしてきましたので、まず、少女時代のことや育った家庭などについてお話いただけますか。

細川さん いろいろな方からよく、「楽しそうにボランティア活動をしているけれど、そのエネルギーはどこからくるの」と尋ねられますが、自然体でやりたいことをやっていたら、それがイコールボランティアだったということで、振り返ると常にボランティア活動をしてきた人生でした。

母が「あなたは1歳のときからボランティア活動をしていたのよ」と話してくれたのを思い出しました。私の初めてのボランティアは、隣に住む、重度のリウマチで寝たきりのおばあさんの家の雨戸をたたき、ハイハイして一目散におばあさんの寝床に飛び込み2人で布団の中で遊ぶというものでした。おじいさんと二人暮らしで子どももおばあさんは大変喜んでくれたそうで、その時から、人の役に立つことが幸せなのだというのを本能で感じていたのだと思います。

湯川さん 父は、私が6歳の時に亡くなり、2人の兄も戦争に行きましたので、母が一人で、幼い私と姉を育ててくれました。母に、フィリピンで戦死した18歳上の兄が残した最後の言葉を聞いたところ、「もし僕が髪の毛がちりちりと縮れて、目のくりくりとした黒い子どもを連れて帰って、その子が『パパチャマ!』と言っても卒倒しないだね」と言ったそうです。ですから、私の原点は平和を守ることに行き着きます。平和や環境破壊など、一度壊れたら元には戻せないものを、自分のやれる範囲で精一杯、生きている限り守っていこうと思って行動しています。そういった活動の中で本当に私を育ててくれ、元気をくれたのが音楽でした。

鳩山さん ゼロ歳の頃は笑うときに、口を開けず声も出さなかったもので、小さな貴婦人と言われていました。だんだんと自分の個性が芽生えてからは、いつも外で男の子と棒を振り回していて、生傷が絶えず、大変厳しいカトリックの学校に通っていたものですから、母は、私のことで毎週注意を受けていました。学校にとっては困った生徒だったと思いますが、母は注意を受けた内容に

ついて一言も言わなかったもので、私自身は何も変わらずに、元氣一杯に楽しい学生時代を送りました。そのようなユニークな子ども時代を過ごし、引き続いて今も変わらないかなという感じなんです。

下村館長 では、結婚、家族、子どもに関することに会場の皆様も関心があると思いますので、そのお話をお願いします。

細川さん 夫から最初にプロポーズされたのが20歳の時でした。私にはたくさん夢がありましたから、こんなお堅い、まじめそうな、窮屈そうな男性にはとてもついていけないと思い、その時はお断りしました。大学卒業後、ある日本の企業に勤め、駐在員としてヨーロッパに行きました。ロンドンに駐在して3年目ぐらいに、ローマへ映画の買い付けに行き、たまたまローマの街角で彼と再会しました。

鳩山さん 私はバツイチです。初めの結婚は私がまだ23歳の時で、結婚とは何かということがわかっていませんでした。2度目の夫、鳩山と出会いいろいろなことを学びました。

初めて知り合いに鳩山を紹介されたのは、まだ最初の結婚をしていて、里帰りという形で宝塚を見ている時でした。その後サンフランシスコに戻り、偶然に何度か出会って声をかけ、それが縁で今に至っています。

下村館長 私の話を少しさせていただきますと、両親は当時として



は異例の仕事を持つ夫婦で、けんかもしていましたが非常に対等で、娘心にもすてきなカップルに見えました。

そのため、私は「将来はお嫁さんになるけれど、仕事を持って、仕事と家庭を両立させる」と生意気なことを言っていました。おじやおば、学校の先生などは「そんなこと言ったら誰もお嫁にもらってくれないよ。かわいくしていなさい」と。そういう時代でしたが、両親は私が大学に行くことに決して反対しませんでした。

では、湯川さんの結婚についてお話しいただけますか。

湯川さん 30歳を過ぎた頃、子どもが欲しいと思って、この人なら良い父親になってくれそうだった人を必死で口説いて結婚しました。けれど、妻のほうが収入が多いとか、知名度が高いというのは、どうも男性にとってはあまりおもしろくないみたいですね。

私の場合、非常にうまくいったし、夫は素晴らしい人でしたが、知らないうちに借金をして家を抵当に入れたりしていました。私は夫に出直しましよと言いましたが、私と毎日顔を合わせるのが苦痛だったのか、彼は自由な道を選んで、結果、残念ながら離婚しました。

下村さん 結婚しないと駄目とか、離婚したらバツとか言いますが、離婚しようとして一生独身だろうと、自分が一番納得する、一番ハッピーな選択をしていくべきです。湯川さんの場合、いろいろあったけれど、息子さんまでいるわけですから、結婚には大成功したといえますよね。

私には子どもがいませんが、夫が、子どものいる夫婦では絶対にならないような夫婦になればいいじゃないと言ってくれたのです。確かに、子どもがいたら私の人生はちょっと違っていったと思います。それがいいか悪いかは別で、神様が与えてくださった条件の中で、自分の人生をどう開花させていくかということのほうが大切だと思っています。

湯川さん 私が本当にうらやましいと思うのは、細川さんのご主人は佳代子さんに、「あなたが本当にやりたいことをやりなさい」と、鳩山さんも幸さんに、「君が輝いていれば僕も輝ける」と仰っていることです。下村さんのパートナーも、一流企業でトップにまで行かれた方なのですが、下村さんを心から応援していらっしゃる。そういう男性はご自分に自信があるから、お互いを独立した



存在と認めることもでき、妻も輝くことができる。そして、家庭と家族のきずなをすこく大事になさいますよね。日本の男性がみんなそうになったら、日本はもっと素晴らしい国になると思います。

下村館長 私は朝日新聞の最初の女性特派員になり、夫を日本に置いてニューヨークに単身赴任をしました。妻が単身赴任をして夫が家を守るのは当時としては珍しいケースでしたが、夫はそのことを恥とは思わず、女性週刊誌などの取材にも喜んで応じていましたし、ささいなことでけんかをしたことはあっても、本質的なことでけんかをしたことは一度もありませんので、夫には大変感謝しています。

最後に若い方たちへメッセージをお願いします。

鳩山さん いつも思うのは、自分がこういうことをしてほしいと思うなら、まず自分からやる。相手を変えるというのはとても難しいので、自分が変わるほうが早いですね。

湯川さん 今の若い人たちに意欲がないとしたら、大人が楽しい姿を見せていないからです。例えば男性が自分の息子や孫に、おじいちゃんの仕事は楽しいぞとか、これはパパが作ったんだよと笑顔で見せていれば、もっと人生を楽しんでもらえると思います。だから、それは私たち大人の責任ですよ。

細川さん 男であろうと、女であろうと、たった一度の人生、たった一人の自分ですから、自分らしい、主体的な人生を送ってほしいと思います。人と比べるのではなく、自分を知り、自分らしい目標を定めて、それに向かってベストを尽くす。常にいきいきと輝きながら生きていってほしいですね。

スワンシスターズ & ボーイズ コンサート

スペシャルトークの後にコンサートが開催され、ユー・アー・マイ・サンシャインなど13曲が披露され、会場は大いに盛り上がりました。

スワンシスターズ



下村 満子館長
福島県男女共生センター
「男と女の未来館」館長



細川加代子さん
認定NPO法人スペシャル
オリンピックス日本名誉会長



鳩山 幸さん
内閣総理大臣夫人



湯川れい子さん
作詞家・音楽評論家

ボーイズ



小田 啓義さん
ジャッキー吉川&ブルー・コメッツの
キーボード奏者、ピアニスト
作詞・作曲・編曲家、ヴォーカリスト



松本 礼児さん
作詞家・プロデューサー・ヴォーカリスト

年度	事業名	開催日	内容
12		H12/9/5(火)	■基調講演 「女と男の新時代をひらく」 下村 満子館長
12	開館記念事業 (オープニングイベント)	H13/1/18(木) ～1/20(金)	■トーク&トーク 「男女共生センターの これから」 船橋 邦子氏 (大阪女子大学教授) 佐藤 栄佐久福島県知事 下村 満子館長 ■記念講演 「女と男のこれから ～女性2000年会議から 見えるもの」 樋口 恵子氏 (東京家政大学教授)
13	来館トークサロン 下村満子と語る会	第1回《二本松市》 H13/4/4(水) 第2回《いわき市》 H13/6/28(木) 第3回《白河市》 H13/7/15(日) 第4回《会津若松市》 H13/8/29(水) 第5回《相馬市》 H14/3/20(水)	■下村 満子館長と 県民のトーク
13	さをり織り 実演とトークの会	H13/5/11(金)	■トーク 城 みさを氏 (「さをり織り」創始者) 下村 満子館長
13	地域女性リーダー 養成講座	H13/6/23(土) ～2/17(日) ・全4回16日間	■講義 「男女共同参画社会のあり方」 栗原 るみ氏 (福島大学行政社会学部教授)ほか ■対話討論 「女性の政治参画の意義」 下村 満子館長
13	男女共生講演会	H13/10/6(土)	■講演 「日本政治の行方と 男女の未来」 ～激動の21世紀を どう生き抜くか～ 筑紫 哲也氏 (ジャーナリスト)
13	日米女性指導者交流 プロジェクト 公開国際シンポジウム	H13/11/11(日)	■「地域社会における介護 支援ネットワークの進め方」 〈コーディネーター〉 ローズマリー・ポッター氏 (ローズマリー・ポッター&アソシエーツ社長) 下村 満子館長 〈パネリスト〉 アーセニア・ジョイナー氏 (フロリダ州議会下院議員) ナン・グローガン・オロック氏 (ジョージア州議会下院議員) ドナ・フィリップス氏 (全米高齢化評議会副理事長) 原 礼子氏 (福島県立医科大学看護学部教授) 金澤 幸子氏 (社会福祉法人にしいづ福祉会常務理事) 近藤 サト氏 (痴呆症の介護者の会代表)

年度	事業名	開催日	内容
13	日米女性指導者交流 プロジェクト 公開国際シンポジウム	H13/11/12(月)	■「女性への暴力問題の 解決に向けて」 〈コーディネーター〉 カロリナ・ズマラン・ジョーンズ氏 (代替政策研究センター エレノア・ルズベルト・ グローバル・リーダーシップ部長) 林 陽子氏(弁護士) 下村 満子館長 〈パネリスト〉 ブリー・ブキャナン氏 (テキサス家庭内暴力協議会 公共政策部長) ジェラリタ・コスタ氏 (ワシントン州議会上院議員) リンダ・オズマンドソン氏 (CASAシェルター専務理事) 草柳 和之氏 (桐朋学園大学講師) 安藤 ヨイ子氏(弁護士) 黒須 敦子氏 (福島県婦人保護推進会会長) 斎藤 美幸氏 (福島テレビ報道部)
13	未来館フェスティバル	H14/1/20(日)	■トーク&トーク 「21世紀の国際社会の 動向と男女共同参画社会」 舩添 要一氏 (参議院議員) 下村 満子館長
14	地域リーダー養成講座	H14/6/1(土)～ H15/2/23(日) 全6回18日間	■講義 「男女共同参画社会の 現状と課題」 二瓶 由美子氏 (桜の聖母短期大学講師)ほか ■対話討論 「今、求められている リーダーシップとは」 下村 満子館長
14	男女共生シンポジウム	H14/6/2(日)	■基調講演 赤松 良子氏 (元文部大臣・WIN WIN代表) ■シンポジウム 「女性議員が増えれば 日本が変わる？」 〈パネリスト〉 岸井 成格氏 (毎日新聞編集委員) 鎌田 さゆり氏 (衆議院議員、宮城・民主党) 吉川 まゆみ氏 (元群馬県議会議員) 〈コーディネーター〉 下村 満子館
14	未来館トークサロン 下村満子と語る会	第6回《郡山市》 H14/8/29(木) 第7回《福島市》 H15/2/2(日)	■下村満子館長と 県民のトーク
14	思春期保健国際セミナー ～10代の性と 生を考える	H14/9/12(木)	■講演 剣 陽子氏 (産業医科大学公衆衛生学教室)

年度	事業名	開催日	内容
14	日米女性指導者 交流事業 (女性リーダー米国派遣)	H14/11/6(水) ～11/15(金)	■派遣者 下村 満子館長 安藤 ヨイ子氏(弁護士) 須田 弘子氏(NPO法人 まごころサービスセンター 理事長) 金子 恵美氏(保原町議会議員)
14	未来館フェスティバル	H15/3/1(土)～ 3/2(日)	■トーク&トーク 「活き活き社会は「食」と共に」 小泉 武夫氏(東京農学大学教授) 下村 満子館長 ■未来館コンサート& トークショー 〈スワンシスターズ&ゲストボーイズ〉 湯川 れい子氏(音楽評論家) 細川 佳代子氏(NPO法人 スペシャルオリンピックス日本理事長) 幸田 シャーミン氏 (ジャーナリスト) 松本 礼児氏(作詞家・歌手) 小田 啓義氏 (ブルー・コメッツボーカリスト) 下村 満子館長
15	地域リーダー養成講座	H15/5/17(土)～ H16/2/22(日) ・全3回12日間	■講義 「男女共同参画社会へのあゆみ」 二瓶 由美子氏 (桜の聖母短期大学専任講師)ほか
15	男女共生講演会	H15/5/25(日)	■講演 「男女が創る豊かな未来」 坂東 眞理子氏 (内閣府男女共同参画局長)
15	未来館トークサロン 下村満子と語る会	第8回《須賀川市》 H15/7/9(水)	■下村満子館長と 県民のトーク
15	男女共同参画 テーマ別講座	H15/7/12(土)	■「みんなで考えよう!10代 のカラダ・ココロ・性のこと」 剣 陽子氏 (産業医科大学助手)
15	未来館国際セミナー	H15/10/31(金)	■「外国特派員から見た ニッポンの男と女」 〈基調講演〉 ジェームズ・ブルック氏 (ニューヨークタイムス社 東京支局特派員(アメリカ)) スペンドリニ・カクチ氏 (インター・プレス・サービス 東京特派員(スリランカ)) 〈パネリスト〉 ルーシー・クラフト氏 (ナイトリー・ビジネス・リポート 東京特派員(アメリカ)) レオ・ルイス氏 (ザ・タイムス東京特派員(イギリス)) アンネ・シュネッペン氏 (フランクフルター・アルゲマイネ・ ツァイトゥング東アジア特派員(ドイツ)) ウラジミール・ソーンツェフ氏 (イタル・タス通信東京支局次長(ロシア))
15	新時代の ライフスタイル講座	H15/12/14(日)	■トーク&トーク 「女の居場所・男の居場所」 斎藤 敏一氏 (㈱ルネサンス代表取締役社長) 斎藤 加代氏 (元船橋市中央保健センター所長) 下村 満子館長

年度	事業名	開催日	内容
15	未来館フェスティバル	H16/3/6(土)～ 3/7(日)	■講演 「21世紀の価値創造～ 感動のライフラインを目指して」 矢内 廣氏 (びあ(株)代表取締役会長兼社長) ■講演&講談 「男女共同参画いま・むかし ～家族の中に見る法律問題～」 渥美 雅子氏 (弁護士、女性と仕事の未来館館長)
16	男女共生講演会	H16/6/13(日)	■講演、トーク&トーク 「一人一人が生き生きと 本当の自分を生きるために」 中森じゅあん氏 (鬼谷算命学研究家、エッセイスト) 下村 満子館長
16	未来館トークサロン 下村満子と語る会	第9回《田島町》 H16/6/27(日)	■下村満子館長と 県民のトーク
16	地域リーダー養成講座	H16/7/3(土)～ H17/2/20(日) ・全3回12日間	■講義 「男女共同参画社会への あゆみ」 二瓶 由美子氏 (桜の聖母短期大学専任講師)ほか
16	DV国際講演会	H17/7/9(金) H17/7/11(日)	■翻訳出版記者発表 (日本記者クラブ) ■講演 「DVにさらされる 子どもたち」 ランディ・バンクロフト氏 (加害者カウンセリング専門家)
16	子どものSOS 発見講座	H16/11/28(日)	■「子どもと心の病気」 「子どもと食事」 「子どもへのかかわり方」 「木村先生・高橋先生と語ろう」 木村 慶子氏 (女性のための生涯医療センター-ViV所長) 高橋 愛子氏 (高橋愛子家庭教育研究所長) 下村 満子館長
16	男女共同参画 グローバル政策対話 福島会議	H16/12/5(日)	■基調講演 「スウェーデン王国における ジェンダー主流化への取組み」 リセ・ペリー氏 (スウェーデン王国法務省 男女共同参画担当副大臣)
16	未来館フェスティバル	H17/3/12(土)	いま輝く女性経営者たち ■基調講演 「私が歩んできた道」 大河原 愛子氏 (㈱)ジェーシー・コム代表取締役会長) ■パネルディスカッション 「気軽にビジネスを始めて みませんか？」 大河原 愛子氏 池田 章子氏 (ブルドックソース(株)代表取締役社長) 小川 善美氏 (㈱)インデックス代表取締役社長) 河野 栄子氏 (㈱)リクルート取締役社長) 小林 照子氏 (㈱)美・ファイン研究所代表取締役社長) 〈コーディネーター〉 下村 満子館長

年度	事業名	開催日	内容
17	未来館トークサロン 下村満子と語る会	第10回《田村市》 H17/6/29(水)	■下村満子館長と 県民のトーク
17	男女共生講演会 &未来館シネマ倶楽部	H17/7/31(日)	■対談 「すべてはそこから始まった」 藤原 智子氏 (映画「ヘアデの贈りもの」監督) 下村 満子館長 ※対談終了後映画 「ヘアデの贈りもの」上映
18	開館5周年記念事業 (未来館フェスティバル)	H17/10/2(日)	■国際結婚シンポジウム 「国際結婚我が家の事情」 ルーシー・クラフト氏 (フリーランスライター) スベンドリニ・カクチ氏 (インター・プレス・ サービス東京特派員) ちよん・ひょんしる氏 (ふくかんねっと代表) ミエダナ・メタニ氏 ジュローム・クヴァジェ氏
		H18/2/5(日)	■男女共生ふくしまサミット ～トップからの熱烈アピール～ 猪口 邦子 内閣府特命担当大臣 (少子化・男女共同参画) 堂本 暁子千葉県知事 片山 義博鳥取県知事 名取 はにわ内閣府 男女共同参画局長 佐藤 栄佐久福島県知事 下村 満子館長
18	未来館トークサロン 下村満子と語る会	第11回《会津若松市》 H18/7/22(土) 第12回《いわき市》 H18/12/16(土)	■下村満子館長と 県民のトーク
18	未来館フェスティバル	H18/9/2(土)	■基調講演 「涙は女の武器じゃない～ どうなる？日本 時代の 変革をリードする女性たち～」 川口 より子氏 (元外務大臣、現参議院議員) ■対談 川口 より子氏 下村 満子館長
18	男女共生講演会	H19/2/17(土)	■講演・トーク 「女性が日本をどう変える？」 田原 総一朗氏 (ジャーナリスト) 下村 満子館長



年度	事業名	開催日	内容
18	未来館ミニフェスティ バル&インターナシ ョナルな事業	H19/3/24(土)	■シンポジウム 「日中の女性リーダー たちからのメッセージ」 〈パネリスト〉 孫 美嬌氏 (中華人民共和国駐日本大使館参事官) 中原 文華氏 (アセット・マネジャーズ㈱ 上席執行役兼国際業務部長) 藍原 寛子氏 (福島民友新聞社報道部記者) 伊藤 由美氏 (有)チャイナックス代表取締役) 何 敏氏 (財)福島県国際 交流協会多言語コーディネーター) 〈コーディネーター〉 千秋 健氏 (メディア戦略研究所代表取締役) 下村 満子館長
19	未来館トークサロン 下村満子と語る会	第13回・伊達市 H19/7/21(土) 第14回・喜多方市 H19/11/27(火)	■下村満子館長と 県民のトーク
19	未来館フェスティバル	H19/9/8(土)	■講演 「仕事を通じて人生を学ぶ」 林 文子氏 (株ダイエー取締役副会長) ■対談 林 文子氏 下村 満子館長
19	男女共生講演会	H19/10/31(水)	■講演 「生きづらい世の中を、 自分らしく楽しく生きる」 香山 リカ氏 (精神科医、 帝塚山学院大学人間学部教授) ■対談 香山 リカ氏 下村 満子館長
19	未来塾	H20/2/3(日) ～2/29(金) ・全3回3日間	■第II講座 「家庭や地域活動、仕事が バランスよく営める 社会づくりに向けて ～今、私たちに 求められることとは～」 下村 満子館長 ※福島市「育児休業促進事業」 との共同開催 ほか
19	インターナショナルな事業 「未来館国際 シンポジウム」	H20/3/14(土)	■世界の“大使が語る、 日本の今”～もっと知ろう 世界のこと、日本のこと～ 〈アイスランド共和国〉 特命全権大使 トーツル・アイギル・オスカーソン閣下 〈ウルグアイ東方共和国〉 特命全権大使 アナ・マリア・エステベス閣下 〈シンガポール共和国〉 特命全権大使 タン・チンティオン閣下 〈マリ共和国〉 特命全権大使 ギセ・マイムナ・ジャル閣下 ※各大使講話後、討論 〈モデレーター〉 下村 満子館長



年度	事業名	開催日	内容
20	男女共生講演会 &未来館シネマ倶楽部	H20/7/19(土) ※午後、夜間の2回開催 H21/2/21(土) ・会津若松市	■「いつも二人」上映 ■対談 愛川 欽也氏 (俳優) 下村 満子館長
20	未来館トークサロン 下村満子と語る会	第15回・楡葉町 H20/8/2(土) 第16回・須賀川市 H20/11/22(土)	■下村満子館長と 県民のトーク
20	未来館フェスティバル	H20/9/6(土)	■「みんなで語ろう！ 21世紀の人生の歩き方」 ※リーダーシップ111との共同開催 大森 安恵氏 (海老名総合病院糖尿病センター長) 大矢 和子氏 (株資生堂監査役) 蟹瀬 令子氏 (LENA JAPON INSTITUTE代表取締役) 木村 慶子氏 (こころとからだの 元氣プラザ理事、医学博士) 斉藤 千代氏 (雑誌「あごら」主宰) 茅野 祐子氏 (社)東京のあすを創る協会副会長) 永井 多恵子氏 ((社)ユネスコ 国際演劇協会会長、前NHK副会長) 林 陽子氏 (アテナ法律事務所 弁護士、国連・女性差別撤廃委員会委員)
20	未来塾	H20/10/29(水) ・全2回2日間	■「ワーク・ライフ・バランス」講座 小室 淑恵氏 (株ワーク・ライフ バランス代表取締役) ほか
20	インターナショナルな 事業「未来館国際 シンポジウム」	H21/3/13(土)	■世界の“大使が語る、日本 の今”～もっと知ろう世界の こと、日本のこと～ 〈オマーン・スルタン国〉 特命全権大使 ハリッド・ビン・ハシル・ ビン・モハメッド・アル・ムスラヒ閣下 〈コロンビア共和国〉 特命全権大使 バトリシア・エウヘニア・ カルデナス・サンタマリア閣下 〈ニュージーランド〉 特命全権大使 イアン・フォープス・ケネディ閣下 ※各大使講話後、討論 〈モデレーター〉 下村 満子館長
21	未来館トークサロン 下村満子と語る会	第17回・南会津町 H21/8/1(土) 第18回・南相馬市 H21/12/17(木)	■下村満子館長と 県民のトーク
21	未来館フェスティバル	H21/9/5(土)	■「人生は変えられる 夢は きっと叶うんだ！～人生懸念 生きる人への応援メッセージ」 ※映画「受験のシンデレラ」上映 ■対談 和田 秀樹氏 (精神科医、大学教授) 下村 満子館長 ■県民とのトーク 山崎 捷子さん (福島県女性団体連絡協議会長) 桜田 葉子さん (福島県議会議員) 山 学さん (磐城緑蔭中学校高等学校副校長) 阿部 祐也さん (高等学校1年) 佐藤 圭佑さん (大学3年) 小宅 優美さん (高等学校3年)



年度	事業名	開催日	内容
21	未来塾	H21/10/17(土) ～11/28(土) ・全6回6日間	■「政治参画」女性議員だから 話せる“参画喜怒哀楽” 五十嵐 乃里枝氏 (三島町議) 桜田 葉子氏 (福島県議) 福嶋 あずさ氏 (いわき市議) ほか
21	未来館誕生10年 記念事業 インターナショナルな 事業「未来館国際 シンポジウム」	H22/2/27(土)	■世界の“大使が語る、 日本の今”～もっと知ろう 世界のこと、日本のこと～ 〈トルコ共和国〉 特命全権大使 セリム・ セルメット・アタジャンル閣下 〈ポーランド共和国〉 特命全権大使 ヤドヴィガ・ロドヴィッチ閣下 〈ベトナム社会主義共和国〉 特命全権大使 グエン・フー・ビン閣下 ※各大使講話後、討論 〈モデレーター〉 下村 満子館長
21	未来館誕生10年 記念事業 「おんなんて何？ おとこって何？」	H22/3/13(土)	■講演 「どうちがう？オスとメス、 男と女」 長谷川 眞理子氏 (生物学者・総合研究大学院大学教授) ■講演 「“婚活”から見てくる、 現代のワカモノ事情」 山田 昌弘氏 (社会学者・中央大学教授) ■トーク 長谷川 眞理子氏 山田 昌弘氏 下村 満子館長
21	未来館誕生10年 記念事業 「未来館プレミアム 夢ステージ」	H22/3/14(日)	■スペシャルトーク 4人のトップレディが語る 「私の生き方」 〈スワンシスターズ〉 鳩山 幸氏 (内閣総理大臣夫人) 細川 佳代子氏 (認定NPO法人スペシャル オリンピックス日本名誉会長) 湯川 れい子 (作詞家・音楽評論家) 下村 満子館長 ■コンサート スワンシスターズ ボーイズ 小田 啓義氏 (ジャッキー吉川&ブルー・コメ ッツのキーボード奏者、ピアニ スト、作詞・作曲・編曲家、ヴォ ーカリスト) 松本 礼児氏 (作詞家・プロデューサー)
21	未来館誕生10年 記念事業 「下村満子館長講演& 異論、反論、何でもあり。 とことん話そう大討論会」	H22/3/22(月)	■未来館誕生10年 記念表彰式 ■講演 「女と男の未来館の“未来観” ～「生き方」を考える ひろばへ～」 下村 満子館長 ■大討論会 下村 満子館長



未来館誕生10年記念メッセージ

未来館誕生10年記念事業には、未来館に関係する方々をはじめ、各界の著名人からお祝いのメッセージをお寄せいただきました。これらのメッセージは、各イベント会場で読み上げ、掲示等によりご紹介いたしました。そのうちの一部をご紹介します。

第1弾 未来館国際シンポジウム

2月27日開催



このたびは、「福島県男女共生センター」10周年をお迎えにいただきましたこと、心よりお祝いを申し上げます。立ち上げ前よりご努力をされてこられました下村満子先輩にとりましては嬉しさもひとしおと存じます。また本日は、各国大使の方々、そして知事様をはじめ多くのご来賓の方々をお迎えしてのオープニングシンポジウム、心よりお喜びを申し上げます。

私と下村様とは、もう10年近くお付き合いをいただいております。スワンシスターズでのジャズの仲間、またある時は強力なアドバイザー、と色々な面でお世話になっております。世界を股に掛け、飛びまわっていらっしゃるお姿と正反對の私が申し上げるのも失礼なのですが、少女のようにいつまでも愛らしく魅力的な方でいらっしゃいます。どうぞ今後とも、福島のため、日本の、いえ世界のために、お力を発揮いただきますように、お願い申し上げます。

本日の「未来館国際シンポジウム」のご成功を、心からお祈りいたします。

本日はおめでとうございます。

鳩山 幸



未来館誕生10周年おめでとうございます。また、本日は、トルコ大使様、ベトナム大使様、ポーランド大使様を招かれての国際シンポジウムご開催、誠にありがとうございます。

私は、男女共生の問題を考える際に、国際的視点が重要だという下村さんの姿勢を高く評価しています。

下村さんとは、数十年来の親友ですが、彼女の視野の広さに、いつも触発され、尊敬しております。

本日の会のご盛會と、お集まりの皆様のご多幸を、心より、祈念いたします。

参議院議員・元外務大臣

川口 順子

第2弾 おんなって何？ おとこって何？

3月13日開催



福島県男女共生センター10周年おめでとうございます。

福島県の方たちにとっても、日本にとってもこの10年間のセンターが様々な問題提起、調査研究、楽しいイベントを実行され、特に国際的な視点に立った活動をなさったことは人々の視野を大きく広げ、現実への理解を深め、社会を元気にするものでした。下村館長はじめ県、関係者すべてのご尽力に心から敬意を表します。

今後ますます「福島だからできること、福島にしかできないこと」を積み重ね、新しい人材を発見育成し、女性にも男性にも元氣と自信を与え、多様で刺激的な情報を発信され続けることを期待しています。

昭和女子大学学長・元内閣府男女共同参画局局长

坂東 眞理子



未来館誕生10周年を迎えられましたことをお喜び申し上げますとともに、「未来館フェスティバル」で講演したことを懐かしく思います。

未来館設立と同じ平成13年、参議院議員に初当選してから今日まで、私は、日本をより良い国に変えるために働いてきました。

また約2年間にわたり厚生労働大臣として、雇用の均等や子育て支援等にも積極的に取り組んで参りました。

この10年で男女共同参画の必要性は一段と高まっており、その実践的活動拠点である未来館が果たすべき役割は、一層重みを増していると思います。日本の未来を明るくするために、これからの10年において、未来館による地域住民の自己啓発や社会参加の機会の提供が実り多きものになることを期待しています。

参議院議員・前厚生労働大臣

舩添 要一

第3弾 スワンシスターズ スペシャルトーク&コンサート

3月14日開催



「女と男の未来館」が開館10周年を迎えられるとき、誠に御同慶の至りです。

この館の創立以来ずっと館長をつとめてこられた下村満子さんは、若い時代からの友人ですが、ジャーナリストとして培われた優れたセンスと広い人脈を生かして、未来館の企画と運営をすばらしいものとして来られました。

私も初期の頃、イベントの一つに参加しましたが、施設の立派さに感心すると共に、これを十分に活かしてほしいと強く願いました。世の中には立派な建物で閑古鳥がいない場合があるからです。未来館の場合は下村館長とそれを支える方々の力で、全国でモデルにされる充実した施設になっています。

心からお祝いを申し上げる次第です。

財団法人日本ユニセフ協会会長

赤松 良子

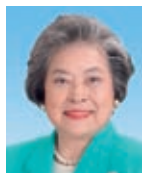


下村さん、おめでとうございます。『朝日ジャーナル』編集長をしていた時代から、日本の女性の知性と行動力を代表する方でしたが、今はその能力を地方にもお使いになっているのですね。十年というのは、長い時間でずっと多くのご苦勞もあったと思います。

その業績を讀えて、下村さんの素敵なお仲間が集まるということ。さぞかし華やかな催しになることでしょう。福島の春を告げるようなコンサート、私もぜひうかがいたかったです。

作家

林 眞理子



10周年、おめでとうございます。開館してから福島県男女共生センター「女と男の未来館」はそのユニークな仕事ぶりや年ごとに充実していく内容が全国から注目されてきました。

その理由は、ローカルカラーを生かし、県民参加の男女共同参画社会づくりを実践しながら、一方で、全国的な視点と国際的なスケールを大事にしてこられたからだと思います。国際的なイベントは貴館の特徴で、ダイナミックな魅力があります。

「女と男の未来館」は見事に福島から輝き、私たちに勇気を与えてくださいました。館長と職員の皆さんのご努力に心からの敬意を表し、これからも、地域の女性と男性に愛される会館として発展されることを願ってやみません。

前千葉県知事

堂本 暁子



「福島県男女共生センター」10周年誠にありがとうございます。

私は福島県出身というご縁もあり、館長の下村満子さんにはいろいろとご指導をいただき、また大変お世話になっております。下村さんには、日本の文化振興を目的としたボランティア集団で、私が事務局長を務める「エンジン01（ゼロワン）文化戦略会議」の幹事に就任いただいております。2006年に開催した「オープンカレッジinあいづ」や、翌年、日中国交35周年を記念し開催した「オープンカレッジin北京」においても、格別のお力添えをいただきました。

最近、異性と寄り添い草を食べることを願う所謂「草食系男子」が急増していると言われています。しかしこれは裏を返せば、今まで以上に女性の活躍が目立ち始めているとも言えるわけで、共生センターの目指す「男女共同参画社会」に近づいているのかもしれない。その最前線で「肉食系」の活動を続けてこられた下村さんに心より敬意を表したいと思います。

また「福島県男女共生センター」のこれからの一層のご発展を祈念いたします。

びあ株式会社 代表取締役社長

矢内 廣

第4弾 下村満子館長講演 & 異論、反論、何でもあり。とことん話そう大討論会

3月22日開催



未来館誕生10周年おめでとうございます。

男女雇用機会均等法が、1985年に制定されてから、25年が経ち、男女共生・ジェンダーという考え方が、ようやく、普通に受け入れられるようになったと思います。

福島県においては、この男女共生センターが、この分野の核として重要な役割を果たしてこられました。館長下村満子さんは、「女と男の未来館」というユニークな命名からもわかるように、行動につなげることが時として難しい「男女共生」を、独創的な発想で、ユーモラスに、また、刺激的に、広めてこられた素晴らしいリーダーです。その活動を支えてきたものは、下村さんご自身の男女共生実践体験や、国内外におけるジャーナリストとしての経験の蓄積、禅に培われた人間への暖かく深い洞察、さらに、父祖の地である福島県への強い愛郷心があると思います。

また、未来館の10年間は、その活動を支えられてきた県民の皆様、福島県当局、地元の二本松市、未来館の職員の皆様の弛まぬご努力と創意工夫、そして、実行力の礎の上に、築かれたものと思います。

今日ここに、これまで10年間の成果に敬意を表させていただくとともに、未来館のますますのご発展と、お集まりの皆様のご多幸を、心より、祈念いたします。

参議院議員・元外務大臣

川口 順子



日本を代表する国際的な女性ジャーナリストとしての下村さんのご活躍は存じあげておりましたが、実際にご本人に接したのは或るシンポジウムでした。

勿論私は会場の参加者の一人だったのです。彼女の明快な論理、説得力、オーラに仰天しました。一種の躍動感を憶えました。

その後、ご縁あってスワンシスターズの仲間に入れていただき、妹分として大変可愛がって頂いております。月に2回スワンの練習時は歌っている時間よりおしゃべりしている時間の方が長い下村さんですが、私にとっては大変貴重な勉強の時間です。

こんな日本一の館長さんに恵まれた福島の女性は幸運だと思います。どうか後に続く第二、第三の下村さんが誕生しますことを心より期待しております。

認定NPO法人スペシャル

オリンピックス日本名誉会長

細川 佳代子



女と男の未来館、開館して10周年おめでとうございます。

平成18年にお邪魔いたしました。

まず、立派な会館でびっくりしました。

そしてスタッフの皆様の細やかさと一生懸命さに胸が熱くなりました。

館長の下村満子さんのお人柄、そしてものすごいエネルギーには常々驚嘆しております。

ご自身のことよりも、いつも人の為に一生懸命頑張られる方で、こんなよい人柄で他人に騙されることがあるのではないかと心配するほどです。

ともかく10年も続いたということは、偉大な事柄です。

男女の新しいパートナーシップの確立に向けて、今後ともめざましい活動の場になるようお祈り申し上げます。

ジャーナリスト

田原 総一朗



男女共生センター10周年おめでとうございます。

下村さんは、女性リーダーの先駆者として、その鋭い知性と経験に基づいた発言と実践。そして女性だからこそその豊かな感性と発想とで、さまざまな道を切り開いて来られたことに、深い敬意を表したいと思います。

そして一緒にスワンシスターズとして歌い始めてからも、ほどなく10年。ここまで歌が上手くなるとは、まさか考えられなかったけれど、その「やる氣」と「根性」にも、心からの敬意と友情を捧げます。愛してるよ！

音楽評論家・作詞家

湯川 れい子

未来館誕生10年記念交流会

3月22日(月)、福島ビューホテルにおいて、未来館誕生10年を記念した交流会が盛大に開催されました。

交流会には、センター開館以来、様々な形でセンターに御協力、御支援をいただいていた女性団体や県・市町村の関係者、及び県内外の関わりのある方々、約150名が参加され、あちこちでセンターの思い出話に花が咲き、また、下村館長を囲んで楽しく交流が行われました。



交流会では、県内外から集まった出席者相互の交流も図られ、出席くださった皆様それぞれが、これを機に男女共同参画社会の実現への思いを大きくしました。



また、途中、下村館長から御列席いただいた皆様に向けて、「皆様の御協力があって、センターもここまで成長することができ、大変感謝しています。生き方を考えるセンターとして、次の10年も走り続けていきます。」との御礼の挨拶がありました。



10年記念事業に向けたメッセージ

「女と男の未来館」誕生10年。私の人生にとっても、この10年の重みはとても大きいです。

福島県民の皆様、県政を担う県、センターの職員、スタッフ、ボランティアの皆様の熱い思いと支えがあって、「日本一の男女共生センターにするぞ!」という目標を掲げ、夢中で頑張ることが出来ました。福島は、断然トップを走っています。10周年の記念事業には、それが集約されています。

課題は、次の10年をどうするか? 「女も男も、子供も大人も、若い人も、全ての人々がより幸せになる社会」を目指し、更なる飛躍に向けて、皆で考え、頑張りましょう!

センターは、そのための「県民の広場」になれば、と思っています。



福島県男女共生センター
「女と男の未来館」館長

下村 満子

※役職名等は、イベント開催当時のものですので、ご了承ください。

福島県男女共生センター広報誌

未来館
NEWS

“自分らしさ”を生かした未来へ

記念
特集号
2010.9

編集・発行

(財) 福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター「女と男の未来館」

〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1

TEL (0243) 23-8301 (代) FAX (0243) 23-8314

ホームページアドレス <http://www.f-miraikan.or.jp>

メールアドレス mirai@f-miraikan.or.jp

女と男の未来館

検索